

令和8年度第1回富良野市スポーツ推進審議会

日時 令和8年8月3日(月) 18時00分～19時30分

場所 富良野市複合庁舎1階文化会館会議室A

出席 富良野市スポーツ推進審議会委員

遠藤和章、木戸秀子、小林裕幸、伊藤幸一、鎌田敏幸、大久保雅恵、木村謙

富良野市

市長(北)、市民生活部長(北川)

事務局

コミュニティ推進課長(桑島)、文化スポーツ係(伊藤)

1. 辞令交付

2. 市長あいさつ

北市長

一言ご挨拶を申し上げます。ただいま辞令交付をさせていただきましたが、委員の皆さんにおかれましては、富良野市スポーツ推進審議会の意義をご理解いただき、ご出席をいただきましたこと、心から感謝を申し上げたいと思います。本審議会は富良野市のスポーツ振興に関する重要事項についてご審議をいただく場でございます。次期スポーツ推進計画の策定に向けて、市としても大変重要な節目を迎えております。市民の健康づくり、子どもたちの健全育成、地域コミュニティの活性化、そして本市の魅力向上に向けて、スポーツが果たす役割は年々大きくなっております。はじめに、健康づくりの現状についてお話をさせていただきますと、市民の運動習慣は一定の改善が見られる一方、働き盛りの運動不足、そして生活習慣病の増加傾向など、解決すべき課題も残されております。高齢化が進む中で、介護予防やフレイル対策として、日常的なスポーツ運動の機会をいかに広げていくかが大きなテーマとなっております。

次に、子どもたちのスポーツ環境についてであります。少子化の影響によりまして、学校部活動の合同化や競技人口の減少が進み、これまで当たり前に成立していた種目が維持困難となるケースも出てきております。一方で、総合型地域スポーツクラブの活動や、地域の指導者の皆様の努力によりまして、新しい形でのスポーツ参加の場が広がっております。子どもたちが多様なスポーツに触れ、成長できる環境づくりは、富良野の未来を支える重要な投資でもございます。

また、競技団体の現状と支援についてであります。競技団体の皆様には、限られた人員、財源の中で、大会運営や指導者育成に尽力をいただいております。近年は団体の担い手不足や事務負担の増大が課題となっており、市としても団体運営の支援や連携強化、情報共有の仕組み

づくりなど、持続可能な体制の構築が求められております。

さらに地域活性化とスポーツの関係について申し上げますと、富良野はスキーをはじめとするウィンタースポーツの伝統、豊かな自然を生かしたアウトドア活動、そして観光とスポーツが結びつきやすい地域特性を持っております。スポーツイベントの開催や合宿誘致は、地域経済の活性化にも大きく寄与していくものと考えておりますし、スポーツを核としたまちづくりの可能性は非常に大きいと感じております。本日はこうした現状を踏まえて、委員の皆様から現場の視点、専門的な知見、そして市民の声を反映したご意見を賜りたいと考えております。次期計画の策定にあたり、健康づくり、子どもたちの育成、競技団体への支援、地域活性化のそれぞれをどのように結びつけて、新しいスポーツ環境を作り上げていくかが重要であります。どうか忌憚のないご意見をいただき、ご議論いただきますようお願い申し上げます。

結びになりますけれども、日頃より富良野市のスポーツ振興にご尽力をいただいている皆様に深く敬意を申し上げますとともに、本審議会が実り多い会となりますように、ご期待を申し上げて、ご挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 委員・職員自己紹介

北川市民生活部長

初回となりますので、委員の皆様から自己紹介をお願いいたします。恐れ入りますが、遠藤委員から一言ご挨拶をお願いいたします。

自己紹介 委 員：遠藤、木戸、小林、伊藤、鎌田、大久保、木村
事務局：桑島、伊藤

4. 議題(1)

①会長・副会長の互選について

北川市民生活部長

それでは、議題(1)①「会長・副会長の互選について」に入らせていただきます。

富良野市スポーツ推進審議会条例第4条第1項において、「審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。」とされておりますので、会長が決まるまで、北市長が会議を進めてまいります。よろしくお願いいたします。

北市長

進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

議題(1)①「会長及び副会長の互選について」を議題とさせていただきます。どのような方法で選出をしたらよいかお諮りいたしますので、ご意見をいただきたいと思います。

ご意見がなければ、事務局から提案をさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

北市長

それでは、事務局から提案をお願いします。

桑島コミュニティ推進課長

会長につきましては、スポーツ協会の遠藤委員にお願いをしたいと思います。副会長につきましては、東山体育振興会の伊藤委員にお願いしたいということで、ご提案をさせていただきたいと思います。

北市長

今、事務局案として、会長には遠藤委員、副会長には伊藤委員という提案がありました。これで決定することでよろしいでしょうか。

(異議なし)

北市長

遠藤会長、伊藤副会長よろしくお願いいたします。

5. 諮問「富良野市スポーツ推進計画の策定について」

北川市民生活部長

早速ではございますが、会長に選出されました遠藤委員には、会長席の方へ席を移動していただきたいと思います。

続きまして、「富良野市スポーツ推進計画の策定について」、北市長より審議会に対し、諮問をさせていただきます。代表して、遠藤会長にお受け取りいただきたいと思いますので、その場でお立ちいただきますようお願いいたします。

北市長

諮問書、富良野市スポーツ推進審議会条例第1条の規定により、下記事項について貴審議会のご意見を伺いたく諮問いたします。

1. 諮問事項 富良野市スポーツ推進計画の策定について
2. 諮問理由 スポーツは、人々に健康や活力をもたらすだけでなく、他者との交流を通じた地域の連帯感の醸成、さらには多世代にわたる心豊かなコミュニティの形成に大きく寄与するものであります。

現在、本市を取り巻くスポーツ環境は、少子高齢化や急激な人口減少、部活動の地域展開、スポーツ施設の老朽化などにより、大きな転換期を迎えています。こうした中、地域資源や豊かな自然特性を活かしたスポーツ環境の整備と、持続可能な地域社会づくりを両輪で進めていく役割は、これまで以上に大きくなっています。

これらを踏まえ、第6次富良野市総合計画の基本施策である「文化スポーツ活動を楽しむまちの実現」を具現化し、幼児期から高齢期にいたる全ての市民が生涯にわたりスポーツに親しみ、健

康で心豊かに暮らし続けられるまちづくりを推進するため、中長期的な基本理念や施策の方向性を示す「富良野市スポーツ推進計画」の策定が重要となっております。

つきましては、「富良野市スポーツ推進計画」の策定について、富良野市スポーツ推進審議会条例第1条の規定に基づき、諮問をいたします。

6. 会長あいさつ

北川市民生活部長

それでは改めまして、遠藤会長に一言ご挨拶をお願いいたします。

遠藤会長

改めまして、先ほどスポーツ推進審議会の会長ということで拝命いたしました遠藤と申します。よろしくをお願いいたします。

ただいま北市長より、富良野市スポーツ推進計画の策定についての諮問がございました。

先ほど皆様からのお話にもありましたように、本市では少子高齢化や若い世代のスポーツ人口の減少など、様々な課題が生じているかと思えます。

また、少年団や中学校の部活動の地域展開が全国で進められております。運営主体も学校から地域へと移行しており、その受け皿をどのように整備し、展開していくかが今後の大きな課題であると考えております。

市民の皆様が生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で心豊かに暮らすことは、これからのまちづくりにおいて重要なこととなっております。地域の実情を踏まえながら、誰もが安全に、そして楽しくスポーツに親しめる環境づくりをどのように進めていくかについて、皆様と共有しながら検討してまいりたいと思えます。

この審議会に求められている役割は極めて重要なものでございます。微力ではございますが、皆様のご協力をいただきながら会議を進めてまいりたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

北川市民生活部長

ここで、北市長におかれましては、他の公務のため、ここで退席されますことをご了承願います。

(北市長退席)

北川市民生活部長

これからの議題につきましては、遠藤会長の進行により進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

7. 議題(2)

① 計画策定の概要について

遠藤会長

それでは議題(2)の審議を進めていきたいと思います。

まず、スポーツ推進計画策定の概要について事務局から説明をお願いいたします。

桑島コミュニティ推進課長

それでは、①の計画策定の概要について、別紙1及び別紙2に基づき説明いたします。資料の1ページから4ページになりますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、計画策定の背景と趣旨についてです。本市のスポーツ施策につきましては、昭和61年に策定された富良野市スポーツ振興計画に始まり、これまで7度にわたる改訂・見直しを行ってまいりました。その中で、自然環境や、地域の特性を生かした生涯スポーツの推進、スポーツ環境の整備、指導者の育成に取り組んできたところでございます。

また、平成28年4月には、学校体育を除くスポーツ関係事務が教育委員会から市長部局へ移管され、その後は市長部局においてスポーツ施策を推進する体制を取っております。

一方、国においては、令和4年3月に第3期スポーツ基本計画が策定され、北海道においても令和5年度から5年間で期間とする第3期北海道スポーツ推進計画が策定されております。そういったものに基づいて、本市においても、第6次富良野市総合計画に掲げる「文化・スポーツ活動を楽しむまちの実現」に向け、ふらのスポーツ協会をはじめとする各種団体と連携しながら、スポーツの推進に取り組んできたところでございます。

第6次富良野市総合計画につきましては、本日配布しております資料2に抜粋を掲載しておりますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

しかしながら、皆様のご挨拶にもありましたとおり、本市においても人口減少や少子高齢化が進行しております。1ページ下段の表をご覧くださいますと、直近10年間で、総人口は約16%減少しており、特に14歳以下の人口については35%減少しております。このことから、少子化が進行している状況がお分かりいただけるかと思います。

このような状況の中で、スポーツ競技人口も減少しており、各種団体の活動維持も困難になってきております。また、部活動の地域展開への対応やスポーツ施設の老朽化などの課題も抱えております。こうした状況から、スポーツを取り巻く環境は大きな転換期を迎えているものと考えております。

こうした時代の変化に対応し、誰もが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で心豊かに暮らせるまちの実現を目指して、新たに富良野市スポーツ推進計画を策定するものでございます。

続きまして、2ページをご覧ください。この計画の位置づけについてご説明いたします。

2ページ下段の図をご覧くださいながらお聞きいただきたいと思います。この計画は、スポーツ基本法第10条に基づき策定をするものであり、国の第3期スポーツ基本計画及び北海道の第3期スポーツ推進計画との整合性を図りながら、第6次富良野市総合計画の基本施策を具現化する

分野別計画として位置づけるものでございます。

計画期間は、令和9年度から令和13年度までの5年間を予定しております。

また、計画を策定するだけでなく、計画の進捗状況につきましても、次年度以降、この審議会へ報告をさせていただきながら、皆様からご意見、ご助言をいただき、必要に応じて見直しを図りながら効果的な推進に努めてまいりたいと考えております。3ページには、これまで富良野市で策定・推進してきたスポーツ関連計画の過程をまとめた資料を掲載しておりますので、後ほどご一読いただければと思います。

続いて4ページをご覧ください。別紙2として、今回お願いする計画策定スケジュールを掲載しております。今後のスケジュールにつきましては、本日の第1回審議会で計画の骨子概要を審議いただき、その後、9月に第2回、10月に第3回、11月に第4回の審議会を開催し、第4回で計画の最終案をご審議いただきたいと考えております。

その後、12月に答申をいただく予定で進めてまいりたいと考えております。答申をいただいた草案につきましては、市民の皆様からご意見をいただくためのパブリックコメントを予定しておりまして、その後、教育委員会にも諮り、意見聴取を行った上で、3月に計画の最終決定及び行政報告を行っていきたいと考えております。

ご意見のほど、よろしくお願いいたします。

遠藤会長

事務局から、計画策定の概要に関わる「スポーツ推進計画の策定にあたって」及び「策定スケジュール」が示されました。

それで一点、議案の5番目の諮問の文言で、富良野市スポーツ推進基本計画とありますが、他の資料は富良野市スポーツ推進計画という文言になっております。

桑島コミュニティ推進課長

申し訳ございません。本日の議案のうち、諮問の箇所では基本という文字が入っていましたが、誤りでございます。

正しくは「富良野市スポーツ推進計画」ということで、お手数ですが訂正をお願いいたします。

遠藤会長

これから私たちが策定作業に関わる計画は、「富良野市スポーツ推進計画」という名称になるということです。

スポーツ推進計画の策定にあたって、国や北海道の流れ、また富良野市の人口の現状などについて説明がありました。

この計画の期間は、令和9年度から令和13年度までの5年間ということです。

また、第6次富良野市総合計画との関連性についても説明があったかと思います。

まずスポーツ推進計画の策定にあたり、皆さまから、普段疑問に思っていることを含めて、どのようなことでも結構ですので、確認したいことやご質問があればお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。

スポーツ推進計画の策定にあたってという部分につきましては、ご了解いただいたということでよ

ろしいでしょうか。

北川市民生活部長

3ページ目をご覧いただきたいと思います。昭和 61 年から富良野市のスポーツ振興審議会が設置され、当時は教育委員会が所管となる中で、スポーツ振興計画が策定されております。

その後、5年ごとに見直しを行いながら、第7次計画となる平成 28 年まで、教育委員会が所管となり計画を推進してきたところです。

一方、富良野市においては、平成 28 年に文化・スポーツ行政が市長部局へ移管されております。そうした経過もあり、平成 32 年(令和2年)までは計画が継続されておりました。スポーツ振興審議会につきましては、平成 19 年に条例が廃止され、それ以降は審議会が設置されない中で、教育委員会の社会教育行政において計画が策定されてきた経過がございます。

また、令和2年以降は、第7次計画を推進し、その内容を引き継ぐような形で現在まで進めてきているところでございます。そうしたこれまでの経過も踏まえ、今回、第8次という形で新たな計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

なお、1ページ目の3行目に「富良野市スポーツ推進計画を策定したことに始まります」と記載しておりますが、昭和 61 年当時は「スポーツ振興計画」が正しい名称となりますので、修正をお願いいたします。

遠藤会長

ありがとうございます。

3ページの下段に「スポーツ推進計画の策定要件」が示されております。国のスポーツ基本法では、「市長は地域の実情に即したスポーツ推進計画を定めるよう努めるものとする。」とされており、努力義務となっております。

私もスポーツ協会で議論した際に、他の市町村ではスポーツ振興に関する計画を策定している一方で、富良野市には計画がないという話がありました。そのため昨年、スポーツ協会で、「これからの富良野市のスポーツのあり方」を取りまとめ、市へ提出をしたところでございます。その中でも、スポーツ推進のための計画を策定していただきたいという要望をしておりました。

また、先ほど文化とスポーツというお話がありましたが、文化につきましても推進基本計画の策定が進められており、今月からパブリックコメントが実施される予定であると広報にも掲載されていたかと思います。そのような中で、私たちはスポーツ推進計画を策定していくことになります。

まず、なぜスポーツ推進計画を策定するのかという部分については、ただいまの説明でご理解いただけたということでしょうか。

次に、4ページで説明がありました策定スケジュールについてです。予定では 12 月に答申を行うこととなっておりますので、逆算すると、それまで毎月会議を開催しながら議論を進めていかなければなりません。

このスケジュールにつきまして、皆様からご意見等がございましたらお聞きたいと思います。

(意見なし)

大変厳しい日程になろうかと思いますが、このような形で進めていく予定となっております。来年3月には計画が決定されることになろうかと思いますが、このスケジュールに基づき、皆様のご協力をお願いいたします。

それでは、「①計画策定の概要について」を終了し、「②計画の基本的な考え方について」、事務局から説明をお願いいたします。

② 計画の基本的な考え方について

桑島コミュニティ推進課長

それでは続きまして、5ページから説明をまいります。

前段では計画策定の背景や趣旨についてご説明をさせていただきましたが、続いて計画の基本的な考え方についてご説明いたします。

スポーツを取り巻く環境につきましては、先ほども触れましたが、この10年間で大きく変化しております。先ほども説明いたしましたとおり、15歳以下の人口は35%減少しており、委員の皆様からのご挨拶にもありましたように、少年団活動や学校部活動においてチーム編成が難しくなっているほか、公式戦や練習試合の機会も減少するなど、状況は深刻化しております。

また、中学校部活動の地域展開への対応も急務になっております。さらに、施設の老朽化や競技規格の改定などに対応するため、今後は計画的かつ効果的に施策を進めていくことが求められております。

こうした課題を踏まえ、目指す姿として、スポーツが持つ力を最大限に活用し、富良野の歴史や地域資源を生かしながら、市民が身近にスポーツを楽しめる環境を整えることで、誰もが心身ともに健やかで健康に、安心して暮らし続けられる持続可能な地域社会の実現を目指してまいりたいと考えております。

続いて6ページ及び7ページをご覧ください。

計画の施策の柱について、案をご説明いたします。基本理念につきましては、「自然と共に、誰もがスポーツを楽しめるまち・ふらの」と定めたいと考えております。

豊かな自然環境や地域資源を活かし、年齢・性別・障がいの有無に関わらず、すべての市民がスポーツを通じて健康で楽しく暮らせる社会を目指すことを基本理念として考えております。

この基本理念のもと、3つの基本目標を設定したいと考えております。

1つ目は、「スポーツ機会創出と推進」、2つ目は、「地域スポーツ活動の推進」、3つ目は、「スポーツ活動の環境整備」でございます。

7ページには体系図をお示ししております。それぞれの基本目標の下に施策の柱を整理し、その下に施策項目を設定しております。

「スポーツ機会の創出と推進」では、世代別に施策項目を設定し、スポーツをする、見る、知る、さらにはスポーツによる健康づくりという柱を設けております。

「地域スポーツ活動の推進」では、地域で支えるスポーツ活動と競技スポーツの推進を柱としております。先ほどからお話しております総合型地域クラブにつきましては、地域で支えるスポーツ

活動の中で位置付けていきたいと考えております。また、競技スポーツの推進につきましても、3つの施策項目を設定したいと考えております。

「スポーツ活動の環境整備」では、老朽化するスポーツ施設の計画的な整備について位置付けてまいりたいと考えております。さらに、適正な管理運営を施策として設け、市民が利用しやすい施設運営と適正管理について示していきたいと考えております。

委員の皆様におかれましては、この基本理念や体系案につきまして、今後事務局で具体案を作成してまいりますので、それぞれの地域の現状や現場のご経験を踏まえたご意見、ご議論をいただきたいと考えております。

遠藤会長

ありがとうございます。

基本的な考え方、基本理念と施策の柱について、案が示されております。

具体的には、この目指す姿の実現に向けて施策の柱が設定されていくものと思いますが、本日初めてご覧になった内容かと思います。地域の現状と照らし合わせてどうなのかという点は、すぐには出てこない部分もあるかと思います。

先ほど説明がありましたように、一度持ち帰っていただき、それぞれの地域において、こうした部分はどうかだろうかとといった点がございましたら、次回ご提案いただきながら、皆さんと課題を共有していければと思います。

まず、現在示されました別紙4の内容につきまして、ご質問等があればお受けしたいと思います、いかがでしょうか。

伊藤委員

この計画に基づく取り組みや組織も含めて、予算というのはどの程度見込まれているのでしょうか。施設の話も出ておりますが、結局は予算がなければ進まない部分もあると思います。計画を立てても予算がありませんということになれば、実現は難しいと思いますので、お聞きしたいと思います。

また、先ほど人口についての説明もありましたが、令和7年の人口状況が示されております。一方で、この計画期間である今後5年間の中で、特に14歳以下の人口がどの程度減少していくのかについては、ある程度見通しが立てられるのではないかと思います。

現在の人口を基準に計画を立てるのではなく、今後の人口減少の見込みも踏まえて計画を策定した方がよいのではないかと感じております。その点について、どのようにお考えかお聞かせいただければと思います。

遠藤会長

ありがとうございます。

まず1点目は、予算についてです。計画に対する予算の裏付けがどのようになっているのかという点、それから、5年後を見据えた人口予測を示した上で、それに向けた計画が必要ではないかというご意見だったかと思います。

北川市民生活部長

ご意見ありがとうございます。確かに予算は必ずついて回る部分でございます。先日、文化芸術推進基本計画を策定した際にも、予算をどのように確保していくのかという課題がございました。市の場合、予算につきましては計画的に事業を進めていく必要があります。これまでスポーツ推進計画については第7次計画を踏襲してきたところですが、今回、新たに第8次計画としてしっかり策定していきたいと考えております。

スポーツ施設の更新につきましては、この計画だけで全てを網羅できるものではないと考えております。今後、競技人口がどのように推移していくのか、野球やテニスをはじめとする各種競技や団体スポーツの現状も踏まえながら、それに見合ったスポーツ施設の整備を進めていかなければなりません。

そのため、スポーツ施設の更新につきましては、別途更新計画を策定し、他の公共施設とのバランスも考えながら進めていく必要があると考えております。

一方で、各世代に応じたスポーツ環境の整備につきましては、今後具体的な計画を作成していく中で、市としてどのように予算を確保していくかを検討していかなければなりません。逆に言えば、計画がなければ予算を確保しにくいという面がありますので、まずは計画を策定した上で、どの分野に重点的に予算を配分していくのかについて、皆様のご意見をいただきながら、進めていきたいと考えております。

また、人口についてですが、今回は令和7年時点と10年前との比較をお示ししております。計画策定にあたっては、将来推計についても一定程度お示しすることが出来ると思います。5年間という期間の中で大きな変化はないかもしれませんが、人口減少の傾向や割合につきましては推計が可能ですので、次回あたりに令和13年時点の推計なども含めてお示ししたいと考えております。10年後、20年後を見据えながら検討していく必要があると思いますが、現在、市全体として人口減少対策にも取り組んでおります。人口を増やすことは容易ではありませんが、いかに減少を抑えていくかが課題であると考えておりますので、その点も踏まえて検討してまいりたいと思います。なお、今回お示した施策体系につきましては、第7次計画をベースとしながら作成しております。加えて、昨年11月にふらのスポーツ協会から提出いただいた、「富良野市におけるスポーツ振興について」の提言書において、世代別のスポーツ環境整備に関する提言をいただいておりますので、その内容も参考にしながら施策項目を整理しております。

予算につきましては先ほど申し上げたとおりですが、まず計画をしっかりと策定し、どこに重点的に予算を投入していくかを考えていかなければなりません。現在、第6次富良野市総合計画においても、令和9年度から始まる後期基本計画の見直し作業も進めておりますので、今後5年間に位置付けられる取組について検討していきたいと考えております。

また、今定例会におきまして、スポーツ指導者の資格取得に対する助成制度を創設するための予算を計上しております。これは、今後進められる部活動の地域展開を見据え、受け皿となる指導者の確保、特に資格を有する指導者の育成を目的としたものです。

このように、スポーツに関する基盤づくりのための予算についても、少しずつではありますが確保

を進めております。スポーツ施策への予算が少ないのではないかとご意見もありますが、こうした計画を策定する中で、必要な予算の確保につなげていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

伊藤委員

ありがとうございます。私も軟式野球連盟に関わっておりますが、子どもの数が減少している中で、富良野支部としての活動を将来的に継続できるのかという話も出ております。

仮にチームが存続していても、大会そのものが富良野で開催できなくなり、旭川などでの開催になる可能性もあります。そのような状況の中で、例えば野球場を新設するなど、施設整備の計画や予算を組んだとしても、その後の競技人口の減少などにより十分に活用できなくなる可能性もゼロではありません。

そうした将来的な状況も見据えながら考えていかなければならないと思います。

また、ふらのスポーツ協会には 20 を超える競技団体がありますが、それぞれの団体から施設改善に関する要望が出ています。それらの意見を取りまとめていくことは非常に難しいことだと感じています。月 1 回程度の会議の中で本当にそうした課題について十分な議論ができるのかという思いもあります。意見を出し、持ち帰って検討し、また議論するという形が理想ではありますが、限られた回数の中ではなかなか難しい面もあるかと思います。

せっかくこのような形で審議できる機会がありますので、そうした現状や課題についても一度整理をしてお示しいただきながら、計画づくりを進めていただければありがたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

北川市民生活部長

先ほどもお話ししたとおり、スポーツ施設の更新計画につきましては、スポーツ推進計画の中ではなく、別途検討していきたいと考えております。

その際には、審議委員の皆様にも最終的にご確認いただくこととなりますが、まずはスポーツ協会を通して各競技団体の皆様と意見交換を行い、今後どのような施設整備が必要なのか検討していきたいと考えております。

毎年、スポーツ協会から要望書をいただいておりますが、それに加え、各競技団体と直接意見交換を行う場を設けながら、施設の更新計画については別途策定していきたいと考えております。

その検討結果や進捗状況につきましては、適宜、委員の皆様にもお示しし、ご意見をいただきながら進めてまいりたいと考えております。

桑島コミュニティ推進課長

部長からお話がありましたとおり、スポーツ協会からも提言をいただいております。スポーツ協会の提言を作成するにあたっては、各競技団体にアンケートを実施し、意見聴取を行っております。

今回の計画策定にあたりましては、山部、東山、麓郷地域の現状についても把握したいと考えておりますので、スポーツ協会が各競技団体に実施したアンケートを参考にしながら、地域の実情を把握し、計画に反映していきたいと考えております。

また、改めて各団体の会長の皆様へアンケート用紙を送付させていただきますので、地域の現状

についてご記入の上、ご返信をいただきたいと思います。

いただいたご意見につきましては、会議の中で共有しながら、計画の草案に盛り込んでいきたいと考えております。

遠藤委員長

人口につきましては、私も2、3年前に聞いた際、その年に生まれた子どもの数が100人を切っている状況でした。聞くところによりますと、令和7年は70人台とのこと。

その後、転入されるお子さんもいらっしゃいますが、生まれる子どもの数が毎年減少しているという現状があります。仮に毎年70人程度で推移した場合10年後には小学校3年、4年生の学年規模も70人程度となり、その子どもたちが中学生になったとしても1学年70人程度という状況になります。3学年合わせても210人程度となり、今後、富良野市では、中学校1校で足りるような状況が生じるのではないかと懸念しております。

他の部署において人口に関する会議も行われているということでございますので、そのような資料につきましても、今後ご提供いただければと思います。

私の方から事務局にお願いですが、先ほど、山部、東山、麓郷地域の現状についてアンケートを実施したいというお話がございました。

計画策定にあたりましては、7ページの体系図にあります施策の柱や施策項目を設定するための裏付けが必要だと思います。そのためには、まず富良野市の現状がどうなっているのかを、把握することが重要です。

本来であれば、1年から2年ほどかけて審議会を開催し、その中で市民アンケートなどを実施できれば、より具体的な課題が見えてくると思いますし、その課題を解決するために、この計画をどのように活用していくのかという議論ができるのではないかと思います。

ただ、今回は計画策定の期間が限られておりますので、そこまで進めるのは難しい部分もあるかと思えます。できれば、先ほどお話のあった人口の資料も含め、例えば学校部活動に関しては、教育委員会において中学生や保護者を対象としたアンケート調査を実施していると思いますので、そのような情報も共有していただきたいと思います。

富良野市の部活動の在り方や地域展開に関する計画も少しずつ策定されていると思いますが、その計画に対して現在どのような取組が進められているかもを含め、次回の会議あたりで教育委員会から情報提供をいただければ、より具体的な議論につながるのではないかと考えております。

鎌田委員

一番良いのは、現状の子どもたちもそうですけれども、保護者の方々から、これから中学校で部活動をどのように進めていってほしいのかという意見を聞くことだと思います。そうした意見を聞くのが一番良いのではないのでしょうか。

遠藤会長

具体的に今どこまで進んでいるかは分かりませんが、ある程度の基礎資料は教育委員会で持っているはず。

ぜひそうした資料を次回の会議でお示しいただき、委員の皆さんで共通認識を図っていければと

思います。

部活動に関しては、これまで教員が中心となって顧問として指導してきましたが、働き方改革も含めて、国の方針として部活動は地域展開が進められており、地域で受け皿を整備していくことが求められています。

例えば、柔道については、クラブを立ち上げて活動を行っております。中学校には柔道部がありませんが、柔道を行っている中学生は、中体連に出場するために柔道連盟を中心として活動を進めているということですよね。

木村委員、このあたりはいかがでしょうか。

木村委員

柔道につきましては、中体連への参加は学校を通じて行っていましたが、学校に部活動がなかったため、これまでは設置外部活動のような形で活動しておりました。それが3年ほど前から、地域クラブでとして中体連にエントリーできるようになっています。

私が把握している競技で申し上げますと、陸上では、西中学校の生徒が富良野ジュニア陸上クラブとして活動しております。昨年度までは樹海学校の生徒も所属しており、現在は東中学校へ転校して陸上に取り組んでいる生徒もおります。

また、今年はフラットを拠点とする水泳チームが初めて参加し、先日の全道大会でも大変素晴らしい成績を収めておりました。ただ、水泳は今後、中体連の種目から外れる予定と聞いております。今年の上川管内大会は、野球、サッカー、柔道が同じ東光の施設で実施されておりました。その際、学校の先生方ともお話しする機会がありましたが、上川管内全体を見ても、部活動の地域移行が進んでいる地域ではないと思っております。

ただ、その中でも富良野近辺は地域移行が遅れているという認識を持つ方が多いようです。例えばバレーボールでは、今年の上川南部中体連のプログラム見ますと、学校単位で出場しているのは富良野だけで、他は既にクラブチームとして地域に部活動を移行し、中体連に出場しております。

旭川などでは、自分の学校の部活動で出場する生徒もいれば、クラブチームから出場する生徒もおります。教員は自校のチームを応援する一方で、クラブチームから出場する自校の生徒も応援もしており、壮行会なども行われています。

そのような形が既にスタンダードになりつつありますが、富良野では現在のところクラブチームの整備が十分に進んでおらず、部活動の地域移行も進んでいないという印象を持つ方が多いという状況です。

大久保委員

確か富良野は、他地域と比べると部活動の地域移行があまり進んでいない部分があると感じています。

学校の生徒が陸上大会に出場した際や、野球の大会なども応援に行かせていただきましたが、陸上については旭川方面ではクラブチームが多く、学校名で出場しているところは一部の市町村に限られているように感じました。

また、野球についても地域展開は進みつつありますが、部活動によっては、例えば麓郷の子どもが中富良野の子どもと一緒にチームで活動している事例もあります。異なる市町村の子どもたちが合同チームを組んでいる場合、その取扱いをどうしていくのかという課題があります。

富良野の子どもが別の市町村の合同チームへ参加したいとなると、これまで人数を確保して活動してきたチームの存続にも影響が出る可能性があります。そのため、合同チームとして継続したいという意見もありますが、その点について富良野市がどのような考え方を持っているのか、よく分からない部分があります。

また、子どもたちが地域クラブに参加する場合、授業終了後に活動場所まで移動しなければなりません。中心部に近い子どもは参加しやすいかもしれませんが、移動に時間や費用は掛かることに加え、どのような手段で移動するかという課題もあります。

他市町村との関係もありますし、活動場所や移動手段を含めて考えると、子どもたちのスポーツに親しむ機会を失わずに済むのかということを考えていかなければならないと思います。特に小規模校の子どもたちは、中心部での活動場所まで移動すること自体が難しいケースもあり、どのような仕組みが良いのか課題を感じています。

今年、富良野に来たばかりで詳しい状況は把握できておりませんが、現在の小学生や中学生が今後どのような部活動や競技に取り組みたいと考えているのかについても、把握する必要があると思います。どの競技にニーズがあるのかが分からなければ、地域クラブの受け皿づくりや支援の方向性も定めにくいと感じています。

そのため、子どもたち自身の意向を把握するためのアンケート調査も必要ではないかと思います。他市町村では既に実施しているところもあると聞いております。

また、国では部活動の地域移行に伴い、現状では中学校教員が部活動の指導する際は、教員の資格で行っておりますが、教員が地域クラブの指導に携わる場合には兼職の許可を教育長から許可を得て、兼職することになります。その場合は勤務時間の考え方や報酬の取扱いなども関わってきます。

こうした制度について、富良野市としてどのように進めていくのかが見えていない部分があります。場所や移動手段の問題に加え、教員の兼職兼業の取扱いについても校長会ではよく話題になっております。

鎌田委員

中学生であれば、自分がどのスポーツをやりたいかという希望があると思います。麓郷であればクロスカントリーが盛んですが、高校では素晴らしい先生がいらっしゃることもあって、市外から生徒が集まってきている状況があります。

一方で、中学校の段階で「スキーではなく別の競技をしたい」と考える子どももいます。例えば、「バスケットボールをしたい」という子も中にはいます。

そうした場合、麓郷の子たちは、東中学校ですが、バスケットボールはなかったと思います。

木戸委員

東中学校は中富良野中学校と一緒にやっているはずですよ。

鎌田委員

そうしたこともあり、進学先や部活動の選択について悩んでいる子どももいます。例えば「西中学校の方がいいな」と考える子どももいますが、通学区域の関係もあります。

そのため、希望する競技や部活動との関係で悩んでいる子どもが少なくないということは、ご理解いただきたいと思います。

伊藤委員

今出た意見に関連してですが、子どもたちがどこで野球をするのかという話も今年出ておりました。例えば麓郷中学校の子どもの場合、野球部がないため、西中学校と東中学校のどちらに参加するのかという話があります。その辺の仕組みについては、実際にはよく分かっていない方も多いのではないかと思います。先ほど言ったように、クラブチームを作れば、どちらに通っていても基本的には活動できると思います。ただ、そういった選択肢が私たちのところにはあまり伝わってきていないと感じています。

よりレベルの高い環境でプレーしたいという理由から、地元以外のチームで活動したいと考える子どももいます。

例えば、旭川のチームでやりたいという子どももいます。硬式野球がありますし、軟式野球もあります。両方を選択できる状況ではありますが、旭川市のクラブチームに所属して活動してもよいかという話になると、それは認められないという形になります。それは市や学校単位ではなく、連盟単位でしか判断していないのではないかと思います。その際も、市や学校に話が行き、連盟へ投げかけてもらって判断したというのが答えでした。

中体連については現在、旭川で一括した運営になっていますが、他の野球大会については富良野支部という組織があります。富良野支部がある以上、予選は富良野支部で実施しなければならないという決まりがあります。

こうした中身も理解していかなければ、この計画を作ることは難しいのではないかと思います。競技によって事情や組織の在り方も異なると思います。

こうした話の中には、まだ聞いていないことや共有されていない内容もあると思います。そういった部分も含めて、皆さんと詳しく話し合っていく方がよいのではないかと思います。

小林委員

山部としては、現在中学校がないこともあり、実際には競技スポーツという感覚はあまりありません。どちらかというと高齢者スポーツが中心となっておりますので、今のお話は大変関心を持って聞かせていただきました。

遠藤会長

少年団はありますか。

小林委員

少年団もなくなりました。

北川市民生活部長

振興会に入っているのは何の団体ですか。

小林委員

ゴルフ愛好会とフロアカーリングです。

以前は少年団に助成もしていましたが少年団自体がなくなってしまったのでなくなりました。

北川市民生活部長

中学校の部活動の地域展開は、皆さんの関心事だと思いますが、私どもで策定するスポーツ推進計画は、市全体の取り組みであるということをご理解いただきたいと思います。

中学校の部活動の地域展開については、教育委員会で取り組んでいかなければならない課題です。私どもは、それをこの計画の中に反映させていくという立場ですので、この場で中学校の地域展開を議論しても、学校を調整する立場ではありませんので、直接執行できる立場にはないということです。

今話題となっている地域クラブについてお話しします。認定地域クラブの認定を行うのは、市の教育委員会となっています。他の地域では、すでに認定要件や要綱が整備されており、それに基づいて地域クラブが設立されています。

ただし、地域クラブの設立には様々なハードルがあります。例えば、収支計画を作成し、月額負担金をどの程度にするのか、指導者をどのように確保するのかといった内容を整理した上で、計画として教育委員会に提出し、認定を受ける必要があります。また、単年度ではなく継続的な運営が求められるため、安定した運営体制や収支計画も必要になります。

地域クラブが設立された場合には、市として補助を行う予定ではありますが、まずは立ち上げ自体が課題であり、その取組が少し遅れているのではないかと感じています。ただ今後は、スピードアップしていくものと思っています。

また、中体連の大会参加については、中体連本部や各競技団体が要綱を定めています。その中で、拠点校方式、合同チーム方式、地域クラブ方式などが示されており、自校チームでの参加はできても、合同チームでは参加できない場合があるなど、競技ごとに細かな規定があります。

中体連はそうした要綱に基づいて運営されていると認識しておりますし、その中では、先ほどお話ししたように、資格を有する指導者が配置されていることや、学校長の推薦が必要であることなど、様々な要件があります。そのような内容も皆さんと共有しながら、地域展開は教育委員会の所管

ではありますが、この審議会の中でも共通認識を持っていきたいと考えております。

また、アンケート調査のお話もありましたが、昨年の春頃に教育委員会において、当時の小学校4年生以上の児童生徒と保護者を対象にアンケート調査を実施しております。その資料も教育委員会で保有しておりますので、共有いただきながら議論していくこともできるのではないかと思います。

最近の傾向として、野球やサッカーだけが人気という状況ではなく、スケートボードやeスポーツなど、多様な分野へ興味が広がっています。

このスポーツ推進計画は、スポーツ競技に取り組んでいる方だけを対象とするものではありません。部活動の地域展開という観点では、吹奏楽や書道など、文化活動についても受け皿が必要になってきます。

総合型地域スポーツクラブは、一つの競技に特化するのではなく、様々なスポーツを楽しみながら取り組む生涯スポーツという考え方もあります。得意な競技を伸ばしていく子もいれば、自分に合ったスポーツがまだ分からない子もいます。そうした子どもたちに様々なスポーツを体験してもらうことも、総合型地域スポーツクラブの役割だと考えています。

その受け皿をどのように作っていくのかが今後の課題であり、このスポーツ推進計画の中でもその方向性をしっかり示せるような内容にしていきたいと考えております。

遠藤会長

皆さんから様々なご意見をいただきました。

先ほど申し上げましたように、次回の会議では、事務局で整理をしていただきながら、資料やデータをお示しいただきたいと思います。

スポーツに関わる部分でどのような課題や現状があるのかについても整理しておかないと、何を目的として計画を策定するのが見えにくくなると思います。

そのあたりを次回の会議の中でお示しいただきながら、審議を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

桑島コミュニティ推進課長

今、ご意見がありましたので、次回の会議では教育委員会にもご出席いただき、部活動の地域展開について情報提供いただく場面を設けたいと思います。

遠藤会長

議題①及び②につきまして、何かご意見、ご質問等はございますか。

木戸委員

5年は長すぎるかもしれません。状況がどんどん変わっていきますので。

遠藤会長

施設については、5年という期間は短すぎるのではないかと思います。仮に5年の中で計画した施設を全て整備するとすれば、富良野市の財政的な負担も非常に大きくなってしまいます。

そのため、施設整備については10年、20年という長いスパンで考えていかなければ難しいのではないかと思います。少し消極的な考え方かもしれませんが、市民の要望を全て受け入れること

が理想であったとしても、どこまで対応できるのかという部分では、双方の歩み寄りも必要ではないかと思います。

次回、計画骨子案の提示も予定されておりますが、その前段として、教育委員会からの情報提供も含め、事務局で整理した内容をお示しいただければと思います。

そのような形で回りの会議を進めるということで、よろしいでしょうか。

桑島コミュニティ推進課長

前段で申し上げましたとおり、今後、各地域へアンケートを実施させていただきたいと考えております。その内容についても計画に反映させていきたいと思っています。

また、次回から事務局で作成した計画案の内容についてご審議いただくことになるかと思うので、議案につきましては事前にご送付させていただきたいと思っています。

あらかじめ内容をご確認いただき、当日はそれを踏まえてご意見をいただくような形で進めさせていただきたいと考えております。

遠藤会長

本日予定していた議題につきましては、以上となりますが、ここで閉会としてよろしいでしょうか。

本日、第1回目の会議ということで、長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

また次回以降も議論を重ねながら、より良いスポーツ推進計画となるよう協議を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日はお疲れ様でした。